

## 第2回栗東市観光振興会議 会議録

- 日時： 令和5年3月9日（木） 午後3時00分～午後4時00分
- 場所： 栗東市コミュニティーセンター治田東 大会議室
- 出席： 《委員》  
築地達郎会長、田中由美副会長、岡山光雄委員、林優里委員、西田秀孝委員、  
高野秀樹委員、奥村智委員  
《運営組織》  
一般社団法人栗東市観光協会 山口事務局長  
《事務局》  
商工観光労政課青木課長、商工観光労政課事務局担当

### 1. 開会

（商工観光労政課長補佐）

### 2. 市民憲章の唱和

（商工観光労政課長）

### 3. あいさつ

（会 長）

事務局より、本日の傍聴者は0名と報告された

### 4. 案件

#### 報告事項

#### ① 今年度の取り組み方針に関する実施状況について【資料1】

○事務局説明（省略）

会 長）報告内容について意見等はあるか。

全体としての数字を事務局としてはどう評価しているのか。

事務局）全体的に数字としては、観光協会に努力していただいている部分も大いにあり、また市の包括連携協定先であるセブンイレブンとの連携もまだ始まったばかりであることから、一つずつ具現化していく必要があると感じている。

資料中の「テレビ・新聞・雑誌の掲載」の1月末時点の実績は約31回とあるが、市全体の約330件の新聞報道があり、その約10%が観光関連ですので、市の実績と比較すると観光協会の31回という実績は良かったのではないかと感じている。民間が実施しているツアーについても、

一定の参加者があり、成果があったと判断している。

会 長) この取り組み全体として、マーケティングの実働部隊として観光協会にお願いするのが、この取り組みの特徴だと思うが、会議だけでも複数回されて連携良く進められているような印象を受ける。実際のところどのように動いているのか。

事 務 局) 観光協会とは毎月定例会を開催し、各種事業について意見交換している。特に春や秋の旧和中散本舗の特別公開の事業においては、今年度は非常に多くの方に来ていただいたこともあり、また従来からの駐車場不足の問題もあるので、我々職員も駐車場誘導など一緒にさせていただくなどの協力や情報共有を常に図っている。

会 長) この後、来年度事業計画の話をするが、コロナ禍の影響を受けてきて今後やり方を変えてみようかということになると思うが、課題としてどのようなものがあるのか事例など紹介してほしい。

事 務 局) 観光協会の方で、昨年度からウェルネスモニターツアーなど事業展開を積極的にやっていた中で、例えば、苔のテラリウムの事業について、今年も大変好評だと聞いている。多くの誘客を見込もうとすると、人員体制的なものもあるので、今後どういう形でやっていくのが良いのか、良い観光コンテンツを継続していけるようなしくみづくりが大きな課題である。だからと言って行政の補助金で簡単に解決できる話ではなく、今後の方策について定例会等での協議も含め検討していきたいと思っている。

委 員) 質問であるが、資料1で、観光入込客数が令和5年で1,200,000人と記載があり、平成29年と比べると倍増となっているが、昨年度は何人だったか教えていただきたい。

事 務 局) 令和3年度の栗東市の観光入込客数は927,382人である。また令和4年度の速報値として、本市で計算させていただいた数値としては953,695人となっている。

委 員) この1年間で約250,000人増やすのは非常に難しいと思う。平成29年から令和5年までの間、またコロナの影響があった中で増えているの

は、成果としては非常に上がっているのかなと思う。増えた要因や今後さらに活性化していく戦略などはあるのか伺いたい。

事務局) 大きく増えた要因としては、宿泊施設でいうと、「ルートインホテル栗東」が開業され宿泊客数が増えたと言える。また本市で一番集客が多い所は、「道の駅アグリ郷栗東」で 359,578 人である。そういったところが増加要因と推察している。

委員) 約 250,000 万人増の理由があれば教えてほしい。

事務局) 先程の要因に加えて補足させていただきたい。

コロナの影響でアウトドア志向も高まり、自然豊かな所や歴史的な建造物などに足を運ばれたりしている傾向にあると推察している。当課でも何故この様な増え方をしているのか驚いた部分もあるが、こういったコロナ禍だからこそ、自然豊かな所をメディアなどで紹介されていたり、金勝ハイキングや金勝寺や他の施設等、一度行かれた方が再度行ってみようかと思われたり、同じ市内の別の施設等にも訪れたり、コロナ禍で県をまたぐ行動制限があったことなども含め、増加要因の一つになっているのではないかと思う。

委員) 了解した。

会長) コロナ禍で「道の駅アグリ郷栗東」の集客に繋がっているのは良いことだと思う。現状も踏まえ今後も増客に繋がる施策は必要なのではないかと思う。

委員) 観光入込客数が 953,695 人→1,200,000 人にしていくということで、フォレストアドベンチャーではマウンテンバイク施設の新しいコンテンツが増えることで、よりオートキャンプやマウンテンバイクを利用いただき、良いお手伝いができたらと思っているが、資料を見て感じたことは、どれくらいの方が、この観光客が来ることで働いているのかということである。

例えば、「めぐりちゃんバス」の運行も 852 人→889 人に増えているが、働く人手が足りず、この数字が天井であればこれ以上に増える見込みもないと思うし、働く人(枠)が確保できれば単純にその成果を倍にできると思う。

コロナが徐々に緩和され宿泊客も増えつつある中、人手不足だから宿泊を断るということは、これ以上の集客は見込めないということではないだろうか。

市内の観光事業者のみなさまも感じておられることだと思うが、コロナからの急激な伸びに受け入れ環境が間に合わない課題があるので、そこを行政としてどういうふうに考えていただけるのか。

会 長) 大変重要なポイントである。このご意見に対して事務局の方で何か意見はあるか。

事 務 局) 観光振興ビジョンの最終的な目標とされているのは、観光入込客数の増も含め、観光消費額を上げていき市内の地域経済の活性化である。

コロナが収束し新たに人手が必要となるのは非常に良い話ではあるが、その観光事業者ごとの人手が足りないところを行政が順番に補填していくというのは不可能な話であり、各事業者の方で一定対応を図っていただく必要があると思う。

一方で、人の「就労」ということで捉えると、当課では雇用対策も業務として担っているので、企業の人手不足と求職者のマッチングを図っていくなど観光とは別のところに対応している。そういう括りで当課に相談いただければ何等かの支援はできる可能性はある。

また、消費行動ができる場所の有無についてどうかと問われたら、一定課題としてはあり、どちらが先かという話もあるが、多くの集客があり土産物を買うところ、食事をするところがあるのが理想である。現状では、飲食店一つをとっても、フォレストアドベンチャーをご利用いただいてその後、近くに昼食をしていただける場所がない。本市で昼食していただければ良いが、草津市で昼食をする、宿泊は大津市ではなく、遊ぶ、食べる、泊まるを栗東市内で完結できるようにするのがベストである。

方向性としては、域内で調達でき、新しいコンテンツとしては「馬」をコンセプトとした健康運動公園もあるので、本市で消費していただけるしるしを行政の方でしっかり考えるべき内容だと認識している。

また観光協会においてはソフト事業ではないが、事業運営を実行部隊としてお願いして、ハード的な大きな面整備等、また市の施策として直接関連づける一定方向性を定めている仕事は行政の方で分担してやっていくべきものと思っている。

委員) 次の案件にも繋がる話だが、事業の継続案件よりも今後の新規案件を協議する中で、人手がそもそも足りているのだろうか。新規の案件を実現するためには、(観光担当)の職員が足りていないのではないか。本日報告いただいた一つ一つの事業を継続するだけで1,200,000人に届くのか、今後大きな成果が得られるのかといったことが、資料を見て感じたことである。

事務局) 1,200,000人の観光入込客数を例に挙げても、厳密に言うと、本当に純粋な観光客なのだろうかと思う部分もあり、市外や県外の観光入込客と果たして言えるのだろうかと思うところもある。先程の「道の駅アグリの郷栗東」の集客増の話で言うと、コロナ禍で県域をまたいだ移動制限がある中で、市民の方が市内に、また近隣の方の集客であるなど、それで市内を押し上げた可能性もある。

先程からコロナ禍にも関わらず観光入込客数が増加したと高評価をいただいているが、数字の側面だけを切り取って短絡的に評価することは、決して正しい判断には繋がらないと思う。

会長) 今の話を聞いて思ったことは、商工観光労政課として3つの業務を担っている中で、先程の人の雇用の部分も併せて考えていただければ有難いと思った。

KPIを我々で決めたので観光協会や市内の企業も含め目標到達の方向性も追求する必要があると思う。それを支援するために行政や市民がサポートできるものはないのかという議論は必要だと考えられる。コメントとして申し上げたい。

何か他に意見はあるか。

無ければ「報告事項①」はこれで終了としたい。

## 報告事項

### ② 栗東観光案内所の運営状況について【資料2】

○事務局説明(省略)

会長) 報告内容について意見等はあるか。

特に無いようなので続いて「審議事項①」に移りたい。

## 審議事項

### ① 栗東観光事業取り組み計画について【資料3】

○事務局説明(省略)

会 長) 報告内容について意見等はあるか。

ピックアップして説明いただいと思うが、もう一度順番に伝えていただき確認しておきたい。

事 務 局) 「ウェルネスツアー」、「旧和中散本舗」、新規事業では「道の駅フリーペーパー」、次期観光振興ビジョン改定のための調査事業として「観光ニーズ調査」などが主なものとなっております。

委 員) 滋賀県では令和4年度から9年間「シガリズム観光振興ビジョン」で進めている。びわこビジターズビューローの方でも同じタイミングで令和4年度から第3期中期計画の中で、シガリズムの推進を3つの重点テーマとしてうたっている。

「シガリズム」がまだ浸透していない状況の中で、どこまで意識して計画を策定されているのか伺いたいのが1点と、2点目として、データ活用に関して、各市町で分析されていることだと思うが、県とびわこビジターズビューローの方で、データ活用としてのDX(デジタルトランスフォーメーション)を特に強化するように言われている中で、令和4年度は3つの事業者として「草津市」、「びわ湖大津プリンスホテル」、「近江鉄道」にモデル事業として実施させていただいた。その報告会を3月22日にWeb(ウェブ)で実施する予定である。その推進事業を補助事業として今進めていきたいということで動いているところである。

栗東市で、令和5年に次期観光振興ビジョン改定のための調査事業と挙げられているが、是非どういう内容を調査してどう活かしていかれたいのか、「シガリズム」と「データ活用」のこの2点についてお伺いしたい。

事 務 局) 「シガリズム」については、具体の中身については触れられていないところもあるが、これから事業を進める中で、本市だけではできないところも多々あるので、滋賀県及びびわこビジターズビューローとも協議させていただきながら進めていきたいと思う。こちらからびわこビジターズビューローに依頼することも多々あるので、その際にはご協力をお願いしたい。

「観光ニーズ調査」では 観光振興ビジョンで今まで数字を出してきたので、先ほど事務局の説明にあったように 本当にこれがどういう状況でこの数値が出ているのか、しっかりした原因の追究をしていきながら、本市の観光がどのような立ち位置にあるのかしっかり見極めた上で次の

計画を立ていきたい。データ活用についても使用できるもの活用したいので検討したい。

委員) 「ウエルネスツアー」については令和3年度と令和4年度と2年続けて実施され、ぐんと数字があがってきている。県の「シガリズム体験」にいても、60を超える観光コンテンツを作ってびわこビジターズビューローの方で販売をしている中で、一番売れているものは栗東市の「ウエルネスツアー」である。要するに引っ張っていけるものにどれだけ力を入れるのか、次年度以降の事業については、お客さまからニーズのあるものに力を入れるべきと考える。

上手く「シガリズム」の考え方をもちて体験型の事業に取り組んでいただきたいのが一つと、「データ活用」に関する補助事業においては、びわこビジターズビューローの方からできるだけ早期に発信したいと思っているので、またご相談いただければと思う。

会長) 今の「ウエルネスツアー」について何か意見等はあるか。

運営組織) びわこビジターズビューローの「しがリズムトリップ」と連携して、他市町より売り上げを伸ばすことができたのは大変喜ばしいことだが、先程委員より意見があったように、この事業に対してどれだけの手を打てるのか、事務局を預かる身としては心配しているところである。期待していただき有難いと思う反面、昨年度と同様に続けていくのは非常に厳しい。

昨年度より「森林体験交流センター」として市の指定管理施設として受託しているが、今後スタッフの入れ替わりも想定されており、指定管理料をいただいておりますながら、体制的に上手く運用できていないのが正直なところである。よって、現状の数字を維持、もしくは増加させていくのは観光協会として至難の業であると言わざるを得ない。

会長) このような状況をふまえて行政としては何をどう考えるかというところである。何等か後押しすることで、ビジネスチャンスはありそうだなと感じている。

何か他に意見等はあるか？

委員) 資料3の右列に大阪万博や国スポ・障スポなどビッグイベントが記載されているが、滋賀県でも大阪に来られた客をどう滋賀県に呼び込むか問わ

れている。これに対して今すぐに具体的に何かをとというのは難しいかもしれないが、こういうふうに取り組んでいきたいとか、考えがあれば教えていただきたい。

事務局) 今後、関西で非常に大きなイベント各地で開催される予定であり、大阪の方に集客がある中で、大阪に来られたら滋賀にも来ていただきたいという思いもあり、今後どうPRしていくか、まだ具体的な手法は決まっていないが、これから滋賀に集客できる方策を検討していきたい。

会長) 滋賀県は広告業をはじめとするメディア関連の産業が低い、そういう分野で働く人材、まだまだ需要が無い状況である。今回は色々あって大手の広告代理店は使えないことになっているので、むしろチャンスだと思っている。ぜひ滋賀県でもそのような人材を活用していただきたい。

委員) 資料3のテーマの列の「全般にわたるもの」として湖南地域観光振興会議を挙げておられるが、私は昨年度野洲市の観光振興ビジョンの策定委員として関わらせていただいていた中で、湖南4市が協力していかないと、それぞれに大きな目玉となるような観光資源がある訳でも無く、栗東は栗東、野洲は野洲というよりも、このエリアに多く来ていただき、更に宿泊していただくのが重要であると考えている。

よって「湖南地域観光振興協議会」の組織がどういう位置づけで、栗東市としてどういうふうに関わっているのか教えていただきたい。

事務局) 今質問のありました「湖南地域観光振興協議会」は草津市、栗東市、守山市、野洲市の行政職員と各市の観光協会や商工会等で構成されている団体である。4市のスケールメリットとして活かし、1市のみでの集客は難しいと思っているので、それぞれの市で補いながら4市で誘客を図ることを目的に取り組んでいる。

委員) 来年度、大河ドラマが石山寺を舞台になるので、これもまた追い風になると思う。石山寺と湖南4市の距離を考えると、上手く大津だけで周遊していただくなど、大津は大津で考えられるかもしれないが、石山の方に来られた方をいかに湖南4市の方に呼び込むか考えていき良い機会かなと思う。

会長) 事務局はどこがやっているのか？

事務局) 持ち回りになっていて今年度は草津市が事務局となっている。  
1年毎に交替して事務局を担っている。令和5年度は守山市、令和6年度は栗東市である。

会長) 事務局となったところは、プロデュース力が問われるが、その辺の体制はできているのか。

事務局) 体制については、当課に在籍する職員で対応している状況である。  
例えばひとりで旅行するとなっても1つの市にだけを目的に行くことは無いので、琵琶湖メインということになるが、本市は琵琶湖に面していないので、そういうことからするとこの湖南4市と一緒にPRするとすると、琵琶湖も山もある。一方歴史という所に目を向けると、湖南市の石部宿から大津市の宿場に行く東海道という一つのパッケージが組めるかもしれないし、湖南4市の枠組みに捉われることなく、広域的なスケールメリットを本市で活かしていければと感じている。

会長) 私の方から一言コメントさせていただきたい。  
以前より「産業観光」について申し上げているところだが、令和5年度に工場見学などについて市内企業に協力依頼とあるが、中身大層なことをやらなくても良いが、主要な工場の連絡体制というか情報交換の場をつくる等考えてみたいという気持ちがあると思う。社員食堂などから始めてみてはと思う。呼びかけを、市からか観光協会からするか分かりませんが、できることから来年度着手していただきたいと思う。

事務局) 何らかの形で市内の企業にアプローチさせていただき、とっかかりを作り、踏み込んでいければと考えている。

会長) その他よろしいでしょうか。  
事務局へお返しします。

## 5. 閉会

(田中副会長)